

今月の我がマチの一番星☆

追分八幡神社芸能競演大会
(9月5日)



成澤ツヤ子さん(写真左)と西元さん



西元令子さん

周囲の人に支えられ 感謝しています

「母親から姿勢が悪いと指摘され、矯正するために始めたんですよ」と踊りとの関わりを話す西元令子さん(安平)は現在、安平町婦人団体連絡協議会の会長をはじめたくさんの方の肩書を持っています。

通信教育で取得した書道は6段の腕前。安平小学校からの依頼で40年ほど前から授業で習字を教えてきました。「親子2代にわたって指導したこともあります」と人のつながりを実感。さまざまな大会や催しなどでも賞状の名前書きを頼まれることも多いとのこと。

師範として民謡にも精通し、町内外のイベントの裏方としても大活躍。日本舞踊の名取となり、さらに出演要請が増えて忙しくなったといいます。毎年神社祭りや文化祭の芸能

発表会でも演じ、会場を盛り上げてくれました。そうした多忙な日々を送る西元さんですが、地域の人や友人そして指導者に恵まれたと話を続けます。「まず一番の理解者は夫ですね」と感謝とお礼のことは、「母の体調が悪くなり介護問題で悩んだ時に

主人からアドバイスを受け、家事などを手伝って支えてくれました。本当に夫には頭が上がりません」といつも思っているそうです。

地域のための活動を

「私は人から頼まれるとなかなか断れない性格かもしれ

ませんね。いろいろな方にお願ひされることがありますが、周りから期待されているうちはできるだけ協力を惜しまないつもりです」と、これからも安平町のために活動していく決意を笑顔で応えていただきました。

振り返れば芸歴40年を超える



畠山 清さん

「息子も追分中学校の教師としてお世話になったですよ」と切り出す清志民謡会の会主で『畠山桂星』の雅号を持つ畠山清さん(早来大町)。お祝いの席で一曲披露できればという軽い気持ちで始めた民謡ですが、昨年芸歴40年と会創設15周年を迎えました。今年18日には、民謡と尺八の奏者として急ぎよ依頼があり中国に行くことになったといいます。

自ら芸を磨くとともに、安平地区の子供たちの指導にも熱心に取り組む、大人でも難しい「江差追分」にチャレンジさせているとのこと。「100万円以上もする三味線や何本もそろえている尺八は小遣いやローンで購入しました」とサラリーマンには高額な趣味と苦笑い。

指導者として、挑戦者として

畠山さんは子供たちには無報酬で教えてきました。現在中学生以下14名の生徒がいますが、その子の個性を生かし得意な民謡を見つけ出すと驚くほど才能を発揮すると感心しています。今年4月に苫小牧市で開催された幼少年民謡大会では各部門で教え子たちが上位を独占し、全道大会に出場。「中学、高校になると民謡から遠ざかる子もいると思いますが、時間にゆとりができたころに再び取り組む場合の基礎を身につけてあげたいですね」と指導者として温かく見守る一方、「自宅で何度唄って練習しても、江差に行くと本場の『江差追分』を聞くと自分の未熟さを知り、民謡の奥深さを改めて感じています」と生涯現役、挑戦者として至高を極めていきたいと抱負を語っていました。



清志民謡会創設15周年記念大会(昨年5月27日)